

[別添]

Project PLATEAU 事業推進に向けての第二回情報提供依頼（RFI#2）
募集テーマ

募集テーマ一覧

管理 No	カテゴリ	項目	ページ
01	B. データ整備手法の効率化	衛星データを活用した 3D 都市モデルの評価・作成手法開発及びマニュアル作成	2
02	B. データ整備手法の効率化	民間企業が保有する点群データ等を活用した 3D 都市モデルの整備手法の開発及び利活用促進のためのプラットフォーム策定	2
03	B. データ整備手法の効率化	衛星データ及び AI を活用した更新箇所抽出ツールの開発	3
04	F. データハンドリング技術の OSS 化	3D 都市モデルを 3D City DB に対応させるためのプラグイン開発	3
05	H. 先進技術活用型ユースケース開発	PLATEAU 関連ツール群と AI アプリケーションの連携のための MCP（モデルコンテキストプロトコル）の策定	3
06	J. ムーブメント惹起	GIS 教育に利用可能な都市シミュレータ・教育コンテンツの開発	4
07	S. 地方公共団体ネットワーキング	3D 都市モデルの整備及びサービス実施後の社会実装の実態調査	4
08	Y. 国際展開	PLATEAU の国際展開ニーズ調査及びモデルデータ整備	5

01. データ・カバレッジ拡大

B. データ整備手法の効率化

管理 No	01
項目	衛星データを活用した 3D 都市モデルの評価・作成手法開発及びマニュアル作成
カテゴリ	B. データ整備手法の効率化
施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 3D 都市モデルの整備・更新の費用削減のため、衛星データを活用した 3D 都市モデルの作成手法開発を行う。
想定される スコープ	<ol style="list-style-type: none"> ① 3D 都市モデル作成に活用する衛星データの選定及び有用性評価手法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ● 複数の衛星データの諸元の比較を通じて、データ毎のメリット・デメリットや 3D 都市モデル作成に利用するための課題を抽出しつつ、有用性評価手法を開発・検証する。 ② 衛星データを活用した 3D 都市モデルの作成手法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ● 検証結果をもとに、作業手順や衛星データのデータ品質を整理する。 ● 衛星データを活用して作成した 3D 都市モデルの公共測量申請を行うための調査及び国土地理院との協議を実施し、作業マニュアル案を作成する。

管理 No	02
項目	民間企業が保有する点群データ等を活用した 3D 都市モデルの整備手法の開発及び利活用促進のためのプラットフォーム構築
カテゴリ	B. データ整備手法の効率化
施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在 LOD3 の整備には点群データが必要であり、現在は MMS（モバイルマッピングシステム）等による個別の都度測量により作成を行うため、高コストである。これらに対して、民間企業が保有する点群データ等を活用したより低コストで 3D 都市モデルを整備可能とする手法を確立し、これを開発する。 ● 民間企業等が保有する点群データを 3D 都市モデルの諸元データ整備に求められる公共測量成果として申請利用するために国土地理院等の関係者と必要な関係機関との調整を行う。 ● インフラ点検や道路点検、自動運転等における様々なユーザーが取得した点群データは、クローズドマーケットでの活用しかされておらず、その活用が図られていない。その様々な点群データの利活用を促進するためのプラットフォームを構築する。
想定される スコープ	<ol style="list-style-type: none"> ① 民間企業が有する点群データ等を用いた 3D 都市モデルの作成手法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業が有する点群データ等のうち、LOD3 の 3D 都市モデル作成に活用可能なものを整理し、これらを用いてモデル作成したものを公共測量成果として利用するための課題抽出・有用性検証を行う。 ● 上記で整理した点群データ等から LOD3 の 3D 都市モデルを低コストで効率的に作成するための手法を開発する。 ● 上記の点群データを 3D 都市モデル標準製品仕様に準拠したデータに変換するツールを開発する。 ② 民間企業等が公共測量成果として有する点群データの利用可能性の検討 <ul style="list-style-type: none"> ● 上記手法により作成した 3D 都市モデルの点群データを利用して公共測量申請を行うための調査及び国土地理院との調整を行う。民間企業が保有する点群データ等の利活用促進に向けたプラットフォーム構築 ● 様々なユーザーが取得した点群データを流通するマーケット機能を備えたプラットフォームを整備する。

管理 No	03
項目	衛星データ及び AI を活用した更新箇所抽出ツールの開発
カテゴリ	B. データ整備手法の効率化
施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 3D 都市モデル更新性向上のため、衛星データ及び AI を活用し更新が必要な箇所を自動で抽出するツールを開発する。
想定される スコープ	<ol style="list-style-type: none"> ① 衛星データ活用における更新箇所抽出ツールの開発 <ul style="list-style-type: none"> ● メッシュ単位で更新の優先度をマップ化した 2022 年度の開発成果「3D 都市モデルの更新優先度マップ」を参考としつつ、地物単位で変化箇所を抽出する機能を開発する。

F. データハンドリング技術の OSS 化

管理 No	04
項目	3D 都市モデルを 3D City DB に対応させるためのプラグイン開発
カテゴリ	F. データハンドリング技術の OSS 化
施策	<ul style="list-style-type: none"> ● CityGML 形式で作成された 3D 都市モデルデータを、地理空間情報に関する標準化団体 OGC が開発した 3D City DB に対応させるためのプラグインを開発する。 ● 3D 都市モデルデータをリレーショナルデータベースとして管理することで、データの検索性・ハンドリング性を向上させ、3D 都市モデルデータの流通促進を支援する。
想定される スコープ	<ol style="list-style-type: none"> ① 3D 都市モデルデータのリレーショナルデータベース化 <ul style="list-style-type: none"> ● PLATEAU が定める標準製品仕様（第 4.1 版、第 5 版等）に準拠した CityGML を 3D City DB に対応させるプラグインの開発及びオープン化 ● API を通じて 3D City DB のデータを取得する機能の開発 ● 標準製品仕様と整合したデータベース化における利用方法ドキュメントの作成 ② リレーショナルデータベースの有用性検証・活用事例創出 <ul style="list-style-type: none"> ● 3D City DB から取得したデータの活用事例の創出等を通じた、本データベース公開の有用性の検証

02. ユースケース開発

G. 先進技術活用型ユースケース開発

管理 No	05
項目	PLATEAU 関連ツール群と AI アプリケーションの連携のための MCP（モデルコンテキストプロトコル）の策定
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発
施策	AI アプリケーションでの 3D 都市モデル活用を円滑にするため、3D 都市モデルの形状や属性情報全てを AI アプリケーションが扱いやすい形で送受信し、既存の PLATEAU 関連ツール群（OSS）で処理するための MCP を策定する。
想定される スコープ	<ol style="list-style-type: none"> ① MCP の検討・策定・有用性検証 <ul style="list-style-type: none"> ● 地理空間情報分野における AI エージェントや MCP に関する研究開発動向の調査及び仕様の検討 ● 上記の調査に基づく MCP の策定 ● MCP を用いた AI エージェントアプリケーションの作成及び検証の実施 ② ①の調査結果並びに開発した MCP 及びシステム仕様書の公開 <ul style="list-style-type: none"> ● MCP のプロトコル仕様及び各種 OSS のライブラリに関する仕様書の公開

03. コミュニティ形成

J. ムーブメント惹起

管理 No	06
項目	GIS 教育に利用可能な都市シミュレータ・教育コンテンツの開発
カテゴリ	J. ムーブメント惹起
施策	<ul style="list-style-type: none">● 3D 都市モデルをベースとした都市シミュレータにより、地域に根ざした社会学習、地域学習、歴史学習が可能な WebGIS 教育システムを構築する。● 開発したシステムを用いた学生向けの地理・GIS 授業を設計し、学校の課外授業等として提供する。これにより、学習者に対して社会教育の深堀、プログラミング的思考の習得等を促す。
想定される スコープ	<ul style="list-style-type: none">① 都市シミュレータの開発<ul style="list-style-type: none">● 建物や構造物等の新規設置や移動、「お気に入り」登録、外部リンク登録、モデル表示切替、環境・交通表示等の機能を備えたシミュレータを開発する。● シミュレーションに必要なビジュアルプログラミング機能を開発する。② 学習コンテンツの開発<ul style="list-style-type: none">● 学年や学習期間に応じた地理学習や WebGIS 学習のコンテンツを整理する。● 達成目標等を設定し、学習の進捗を可視化する。

05. 地域のデジタルケイパ向上

S. 地方公共団体ネットワーキング

管理 No	07
項目	3D 都市モデルの整備及びサービス実施後の社会実装の実態調査
カテゴリ	R. 自治体ネットワーキング
施策	<ul style="list-style-type: none">● 3D 都市モデルの整備・利活用を行っている約 250 都市を対象に現在の取り組み状況や継続的に事業を進めていくための課題や工夫点・ノウハウを調査し、これらの好事例をドキュメントとして整理・公開する。● PLATEAU の HP や G 空間情報センターで公開している 3D 都市モデルデータの利用状況を調査し、利用用途等の調査と、それらの内容をドキュメントとして整理する。
想定される スコープ	<ul style="list-style-type: none">① 3D 都市モデルの利活用自治体における好事例の公開<ul style="list-style-type: none">● 自治体への調査内容の設計、調査の実施、ならびに内容のドキュメント化● 好事例の展開方法の設計、および調査の実施② 一般のデータ利用状況の調査<ul style="list-style-type: none">● 3D 都市モデルデータの利活用状況調査方法・内容の設計、ならびに調査の実施、ドキュメント化

07. エコシステム構築

X. 国際展開

管理 No	08
項目	PLATEAU の国際展開ニーズ調査及びモデルデータ整備
カテゴリ	X. 国際展開
施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外における都市デジタルツインに関するニーズを調査し、これまで蓄積してきた 3D 都市モデルの整備から活用までのノウハウについて、更なる海外展開可能性の検討及び海外展開を促進するための戦略策定を行う。 ● 都市デジタルツインの活用ニーズがある国において 3D 都市モデルに準拠した都市デジタルツインを整備し、諸外国における活用可能性を検証するとともに、活用を促進するための情報発信を行う。
想定される スコープ	<ul style="list-style-type: none"> ① 都市デジタルツインの活用ニーズ調査及び海外展開戦略策定 <ul style="list-style-type: none"> ● アジア新興国における政府等の行政機関や民間企業の都市デジタルツインの整備・活用状況、国際標準の採用意向等の調査 ● 海外展開推進に向けた長期的な戦略及びこれを達成するためのロードマップの策定 ● 都市デジタルツインの整備・活用に関する国際機関の意向・状況調査 ② 都市デジタルツインのサンプルデータの整備及び活用促進に資する情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ● ①で活用ニーズが確認できた国での都市デジタルツイン整備・活用ノウハウの展開に向けたサンプルデータの整備及び活用方法の提案 ● 現地での展示会出展、ワークショップ開催等のプロモーションの実施

以上